

## 実は情報セキュリティ事件・事故のNo1だった うっかりミスでは許されない？！

## 約50%の企業で発生している「メール誤送信」への対策とは？

キーマンズネットの会員アンケートで、実際に起こった「情報セキュリティ事件・事故」の1位は約半数が回答した「メール誤送信」。  
『気をつければ防げるのでは？』と思い込んでいるなら、当資料は必見！

あなたの会社では、IT環境のセキュリティに対して、どのような投資を行っているだろうか？アンチウイルスやファイアウォールに代表される「外部からの脅威への対策」にばかり比重が置かれていて、「メール誤送信？自分たちで気をつければいいじゃないか！ほかに投資が必要なものはいろいろあるから…」と“うっかりミス”対策は後回しになっていないだろうか？

ここで注目したいのは、キーマンズネット会員向けに行ったアンケートだ。実際に起きてしまった事件・事故として、1位に挙げられているのは“うっかりミス”の代表格「メール誤送信」。しかも、約半数という数字を見れば、決して他人事とは言えないだろう。

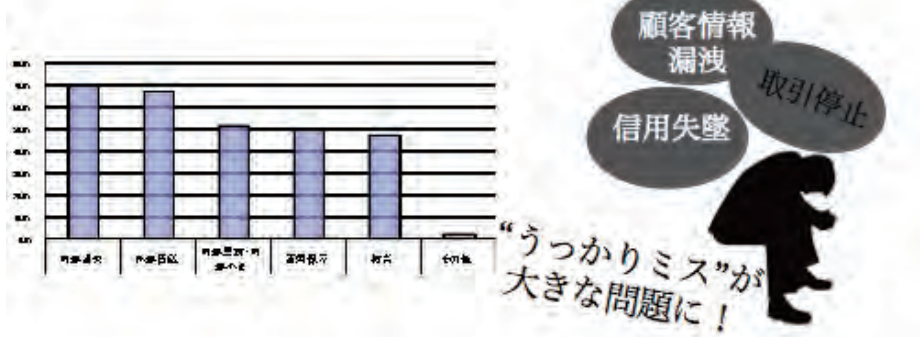
個人情報や社外秘などの情報を誤送信してしまうと、“うっかり”では済まない時代だからこそ！後回しにすべきではない「メール誤送信対策」のポイントを紹介していこう。

### アンケート結果の第1位は 約半数が体験した「メール誤送信」

下のグラフは、キーマンズネット会員を対象に2014年に実施した『セキュリティ対策に関するアンケート』の一部だ。

過去1年間で情報セキュリティ事件・事故を起こしたとの回答は全体の約2割に当たる81名。複数回答で、実際に起こった事件・事故をグラフ化したものだ。

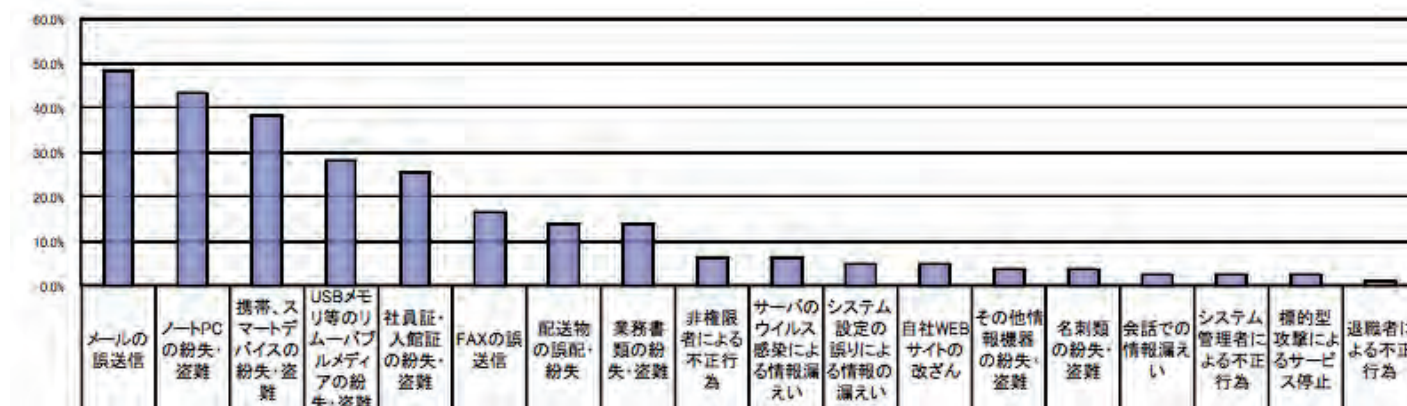
第1位の「メールの誤送信」以下、ノートPCやスマートデバイス、リムーバブルメディアの紛失・盗難といった“うっかりミス”に



関連深い回答がずらりと並ぶ。

約半数が実際に起こした事故として挙げた「メール誤送信」を例に、“うっかりミス”の

ダメージを見ていこう。メールで見積書を送る際に、顧客Aに送るはずの見積書を、顧客Aの同業のBに送信してしまった場



合、次のようなトラブルが予想される。

- 【1】ライバル社であるA社との取引があることで、B社が不信感を抱く
- 【2】A社の方の取引条件が良いことを知ったB社が、取引条件の改善を求めてくる
- 【3】その後の対応次第では、B社との取引停止に至ることも…。

これ以外にも「公表前のIR情報を投資家に誤送信」「キャンペーンの当選者へのメールを、BccではなくCcで一斉同報してしまい情報漏洩として公表せざるをえなくなる」など、“うっかりミス”として片付けるわけにはいかないケースも、十分に考えられるのだ。

同じアンケートで、「情報セキュリティ対策の必要性を感じているもの」を聞いたところ「内部過失」は「外部脅威」とほぼ同じ数字で1位にランクされるほど、企業においても「対策をしなければならないポイント」としての認知は高まっているのだ。

## 添付ファイルのZIP暗号化を手作業で行うリスク

もっとも多くの企業で、メール誤送信対策がまったく取られていないというわけではない。代表的なものは「メールの添付ファイルをZIP暗号化して、解凍パスワードは別メールで送信する」というものだろう。2通メールを送らなければならないため、誤送信に気づくチャンスが増え、パスワード通知メールの前に誤送信に気づけば、受信側でも添付ファイルを開くことができないうというメリットがあるわけだ。しかし、ファイル暗号化ソフトを用いて添付し、解凍パスワード通知メールを送るまでを手作業で行う運用を取っていると、次のようなリスクが発生してしまう。

## ■ 手作業による誤送信対策のリスク

「急いでいるから」「面倒くさいから」といった理由で、運用ルールを守らない社員が数名いるだけで、せっかくの誤送信対策も、リスクを取り去るレベルには至らなくなってしまう。



## 理想はアンチウイルスのようにユーザーが意識しないで済む対策

確実にZIP暗号化を徹底させるポイントは「自動化」だ。エンドユーザーがZIP暗号化を意識せずに、普通にメールへファイルを添付するだけで、自動的にZIP暗号化されるしくみであれば、エンドユーザーに負担をかけることなく、誤送信対策ができるというわけだ。

ZIP暗号化だけでなく、「添付ファイルとメールを分離して、メールにはZIP暗号化された添付ファイルのダウンロードURLが通知され、添付ファイルは安全にダウンロード」「一定数以上のメールアドレスへの同報がある場合は、自動的にBcc化する」「一定の条件に該当するメールは、第三者による確認後に送信する」など、誤送信に対する機能が自動化されているツールを導入することこそ、“うっかりミス”を防ぐ最大のポイントであるのだ。

普段活用しているPCで、アンチウイルス

がバックグラウンドで動いていても、エンドユーザーは意識することはないのと同じように、「メール誤送信対策をしている!」という認識がなくても、結果として誤送信対策が取れているのが理想的な姿だろう。





### どの製品でも同じではない！ 製品選定の注目ポイントは？

メール誤送信対策を自動化できる製品はいくつかあるが、当然のことながら、どれも同じというわけではない。企業ごとに、ユーザ数であったり、ホスティングやクラウドのメールサービスを使っているかにより、選択すべきポイントは変わってくる。ここでは3つのケースを見ていこう。

#### ■【ケース1】 ユーザ数が多いと コスト面がハードルに

「メール誤送信対策ツール」の導入を見送っている企業で、その理由として挙げられることが多いのは「コストが意外にかかる」というものだ。しかし、冒頭でも紹介したように、もはやコストを理由に後回しにしている場合ではないのも事実だ。

ここで注意すべきは、企業の規模感だろう。小規模の企業の場合、導入コストを低減できるユーザ数が多い企業では、初期導入コストを低減できる、月額クラウドサービスが手軽だろう。

しかし、ユーザ数が多い企業にとっては、クラウドサービスの月額料金や、ユーザ数ごとに課金されるソフトウェアでは、積み重なった費用が負担になりがちで、“費用対効果”の面でハードルが高くなってしまう。

#### ■⇒サーバーライセンスの アプライアンスを選んで解決

ユーザ数が多い企業ならば、サーバーライセンスのアプライアンスに注目すべきだ。サーバーライセンスであれば、ユーザ数に関わりなく、コストの上限が一定であるため、数年単位でみたTCOは月額課金やユーザ数課金に比して低コストになりやすい。また、一定の価格であることから、予算化もしやすいというメリットもある。

#### ■【ケース2】 ホスティングで VMwareによる仮想化を行っている

メール環境をホスティングで行っているという企業も多いだろう。ここにメール誤送信対策のソフトウェアを導入しようとした場合、新たに仮想サーバを立て、メール誤送信対策のための環境を構築することになる。

導入時にはそれなりのスキルも必要になり、人的リソースが取られるといった課題が発生しがちだ。

#### ■⇒仮想アプライアンスで 容易にメール誤送信機能を導入

仮想環境で一からメール誤送信対策の環境を構築するのではなく、既にOS、ミドルウェア、エンジンを含めた「仮想アプライアンス」として提供されている製品を選択すれば、導入・構築の負荷を大幅に低減することが可能。

また、仮想化することでVMwareの冗長機能が利用することもできるので、対障害性を低コストで高めることが可能だ。

#### ■【ケース3】 Office365、GoogleApps、 Amazon SESなど クラウドサービスのメールを活用

この1～2年で大企業でも急速に拡大しているのが、クラウドサービスによるメールという選択肢だ。Office 365や

GoogleAppsに加え、Amazon SESもサービスインするなど、今後もメールをクラウドで活用する企業は増えると予想される。

しかし、活用しているクラウドのメールサービスに、メール誤送信機能がない場合はどうすればいいのだろうか？

機能がないからといって、メール誤送信対策を行わないというわけにいかないのは、冒頭で紹介した「後回しの投資にしている場合ではない」ということから明白だ。

#### ■⇒クラウドサービス連携の メール誤送信対策製品をチョイス

クラウドのメールサービスを活用しているならば、各クラウドサービスに対応しているメール誤送信対策製品を選定するという方法があるのをご存知だろうか。

実際、クラウドのメールサービスを選択する際に、幅広い意味でのセキュリティを視野に入れる企業は多い。

こうした企業にとっては、メール誤送信対策も、当然検討要件になる。このニーズに対応するために、Office 365やGoogleApps、Amazon SESへ対応している（あるいは今後対応する）メール誤送信対策製品があるわけだ。



## さて、どのメール誤送信対策製品を選べばよい？

メール誤送信対策を自動化できる製品として、今回紹介するのがオレンジソフトのsafeAttachだ。下にsafeAttachの持つメール誤送信対策機能をまとめたが、必要な機能を網羅しているのがお分かりいただけるだろう。提供形態も

(1) サーバーライセンスだから大人数のユーザでも安心の「アプライアンス

(2) 仮想環境でも導入のハードルが低い「仮想アプライアンス」

(3) クラウドサービスとの連携

といった、いずれのパターンにも対応している。

## メール関連まわりの老舗 オレンジソフトが提供

safeAttachを提供するオレンジソフトは、1990年の創業以来、メールに関連したコ

ミュニケーション製品の開発を行ってきたベンダだ。

1994年にはクライアントメーカーである「Winbiff」を開発し、メールのプロトコルであるIMAPに関するオライリーの書籍の監訳を行うなど、メール周りでの技術、実績を豊富に有している老舗中の老舗だ。

safeAttach自体も2006年に添付ファイル暗号化アプライアンスとして発売されてから、数々の進歩を遂げてきた製品でだけに、安心して導入することができる。

## 金融、通信の大手企業など 豊富な導入実績

safeAttachに対する安心感については、導入実績も参考になるだろう。KDDIといった通信業大手のほか都市銀行や保険業、製造業など、情報漏洩対策への意識が高い業種のリーディングカンパニーでも多数採用されている。

サーバーライセンスによるアプライアンス

という強みから、特に大手企業に採用実績が多いほか、パートナーとの協業により仮想アプライアンスやクラウドサービスとの連携など、柔軟な提供形態を持つのも特長となっている。

|                                       |                                          |                                                                                                                            |
|---------------------------------------|------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>ZIP</b><br>添付ファイルを <b>簡単</b> に暗号化  | <b>Bcc化</b><br><b>確実</b> にメールアドレスの漏洩防止   | <b>添付ファイルダウンロード</b><br>大容量ファイルも <b>安全</b> に送信                                                                              |
| <b>保留</b><br>情報漏洩対策をより <b>万全</b> に    | <b>グループ管理</b><br><b>柔軟</b> なルールの設定・運用    | <b>バイリンガル対応</b><br>完全英語対応により、 <b>海外</b> でも使えます                                                                             |
| <b>AES</b><br>次世代標準暗号化でより <b>強固</b> に | <b>アプライアンス</b><br>導入・運用が <b>簡単</b>       | <br>「添付ファイル暗号化装置」<br>(特願 2007-016910) |
| <b>自動化</b><br>意識させずに <b>確実</b> に暗号化   | <b>本文暗号</b><br>メール全体を <b>守る</b> 本文暗号化    |                                                                                                                            |
| <b>宛先確認</b><br>誤送信を <b>未然</b> に防ぐ宛先確認 | <b>第三者確認</b><br>メール送信管理を <b>徹底</b> するために |                                                                                                                            |

取材協力・情報提供

株式会社オレンジソフト

URL : <http://www.orangesoft.co.jp/>

企画・執筆・編集

キーマンズネット

<http://www.keyman.or.jp/>

## 【お問い合わせ】

One Step Ahead of The Game  
**Asgent**  
アズジェント

株式会社アズジェント

東京都中央区明石町6-4

TEL : 03-6853-7402 E-mail : [info@asgent.co.jp](mailto:info@asgent.co.jp)

<http://www.asgent.co.jp/>